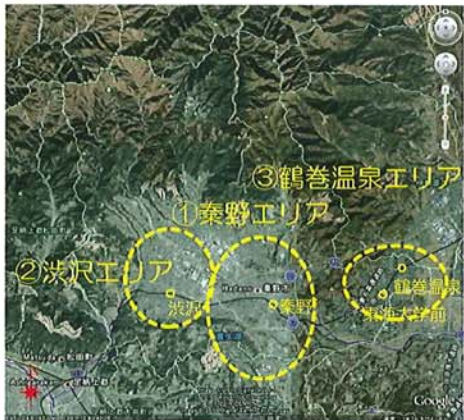


## 公共施設を活用してエリマネジメント

日本は21世紀に入り、少子化、高齢化時代を向かえ、2004年を境に人口減少社会へと突入しました。今後、社会の生産人口も減り、新たな社会への方向を模索していかなければならない時代となりました。このような中で社会は市民社会へと移行し、市民一人一人が自らの環境に目を向ける時代となってきました。

同時に地球温暖化問題、エネルギー問題等により、全地球規模で物事を考えていかなければならない時代となり、これからはこの「環境」というキーワード抜きにして社会は構築できません。

新たな市民社会を構築するとき、市民活動をする場、拠点があることが市民社会のきっかけとして非常に重要なことです。今回提案する複合施設はその際の拠点として位置づけられます。



秦野市全図Googleより

## 公共施設のあり方

「再配置に関する方針」より  
これからの人口減少時代へ向けて、高齢者対策ではなく、子育て支援を中心に行っていく考え方はこちらも考えていたことである。  
また、公共施設整備に関してスケルトン・インフィル方式で行うことも、考えていたことであり、地球環境を視野に置いた施設計画も今日的テーマである。

さらに

- 1、市民憲章でも歌われている丹沢に近く、自然環境が豊かであること。
- 2、公共施設の維持管理について、退職した団塊の世代の方々の社会での活動の場として公共と連携した新しい公共としての仕組みづくり。
- 3、公共施設計画に関して、単独目的型ではなく、地域の寄り合い所適要素のある、公共オープンスペースの確保。これは近所のお祭りイベントや、もちつき大会等、市民レベルでの参加型行事の行えるスペースの創出。  
等の要素を取り入れて考えていく。

秦野全体に対しての公共施設再配置について  
小田急線を中心に大きく3つのエリアに分けられる。

- ・秦野駅周辺エリア：水無川を中心に景観形成する都市景観の創出。
- ・渋沢駅周辺エリア：駅周辺にコンパクトにまとまった居住環境。
- ・鶴巻温泉周辺エリア：温泉エリアを中心にまちづくりを行う。  
特に駅前の駐車場用地の計画が鍵。

## キーワード

### 必須事項

#### 環境

- ・自然エネルギー → 太陽光パネル
- ・地球温暖化 → 壁面緑化
- ・建物性能 → 省エネ化

#### 用途

- ・広場 (公園と一体化) → ピロティー  
パティオ (パーゴラ)  
アトリウム
- ・子育て支援 → ラウンジ
- ・寄り合い所 → ラウンジ  
ミーティングルーム

### 選択事項

#### 建築タイプ (広場の造り方)

- ・UFO型 → ピロティー空間の活用 (イベント広場)
- ・パティオ型 → パーゴラ空間
- ・提灯型 → アトリウム型 (半屋外)

### 建替え手順

#### スキーム1

- ・使いながら更新：配置計画を見直し、それぞれの施設を使いながら更新してゆく。現在の公民館跡地は公園となる。

#### スキーム2

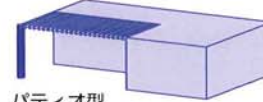
- ・今回テーマの複合施設。  
建替え中の施設利用はできない。  
現在の施設以上の機能は期待できない。

建築装置として標準仕様、マニュアルを整備。  
設計を重ねることにノウハウを蓄積し改訂を重ね、秦野型整備指針を造る。

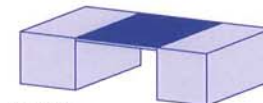
例えば、外装の標準化、緑化の標準化等。  
子育て支援機能について、意見を聞き反映させながらマニュアル化していく。



UFO型

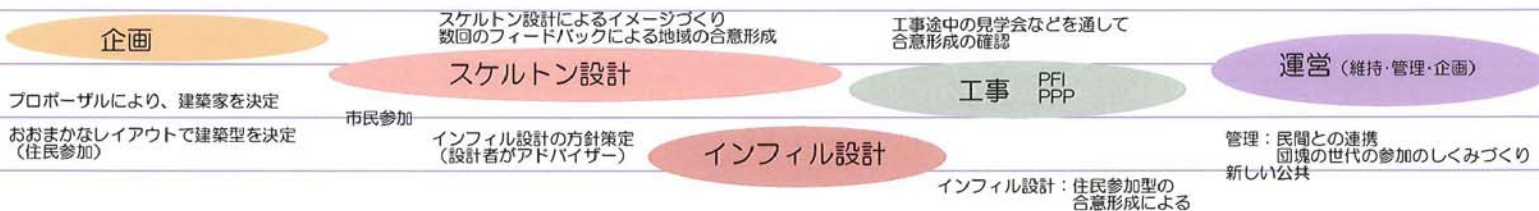


パティオ型

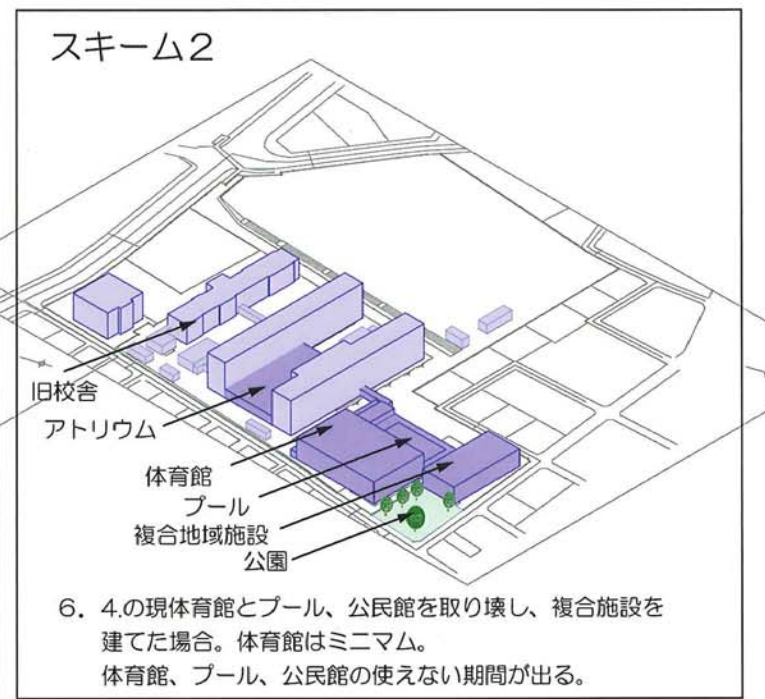
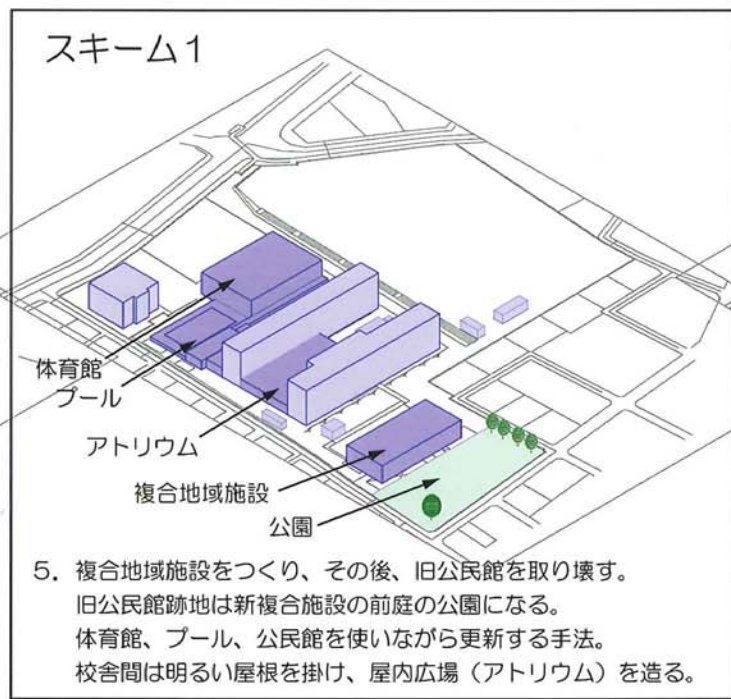
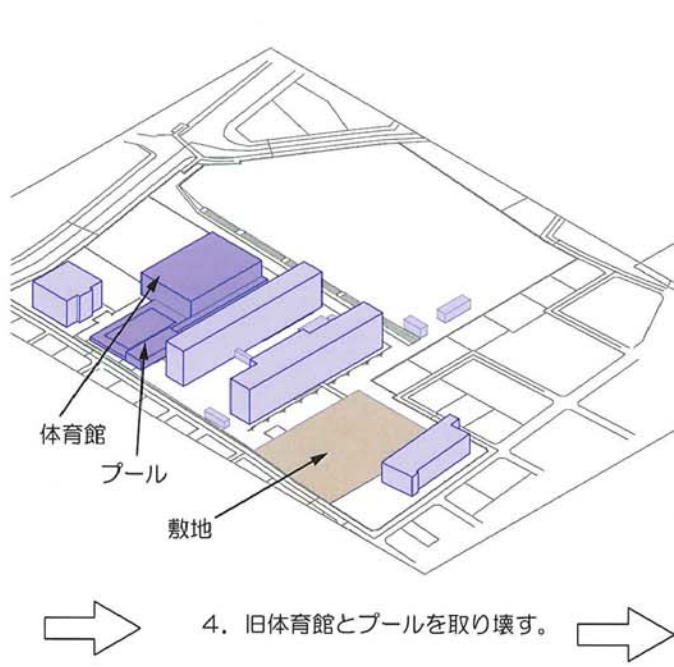
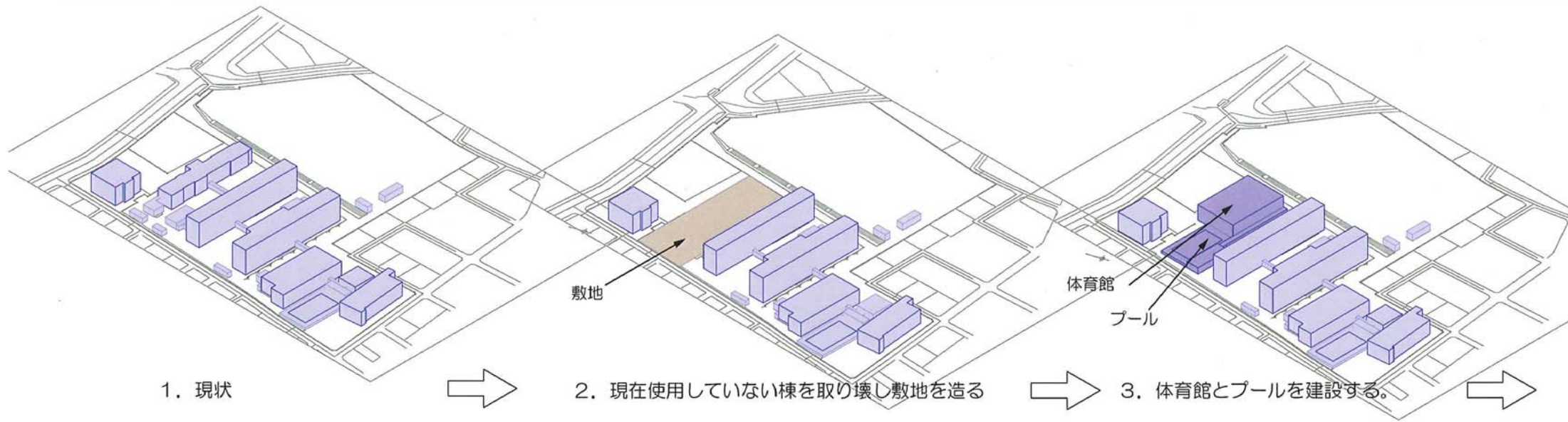


提灯型

## 施設が地域に根づくまでの流れ



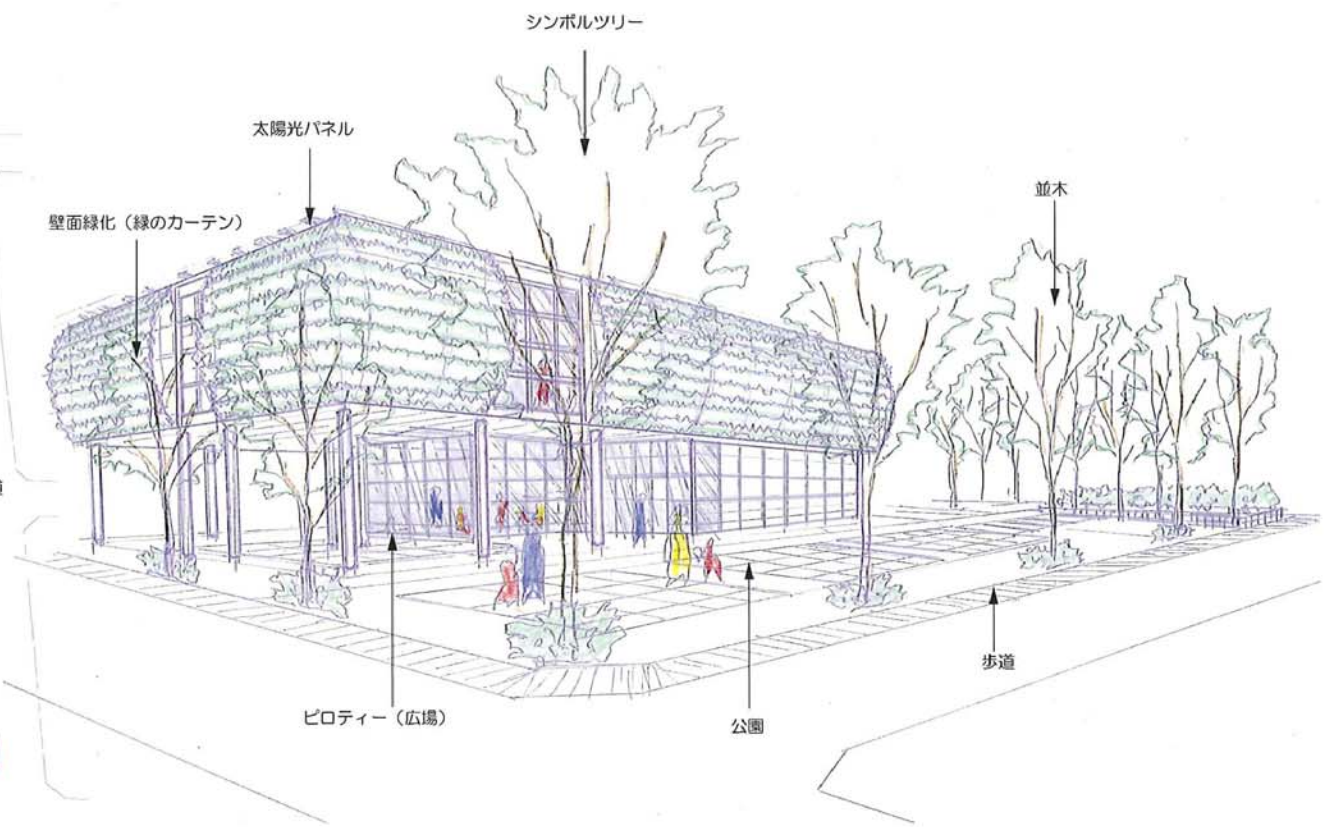




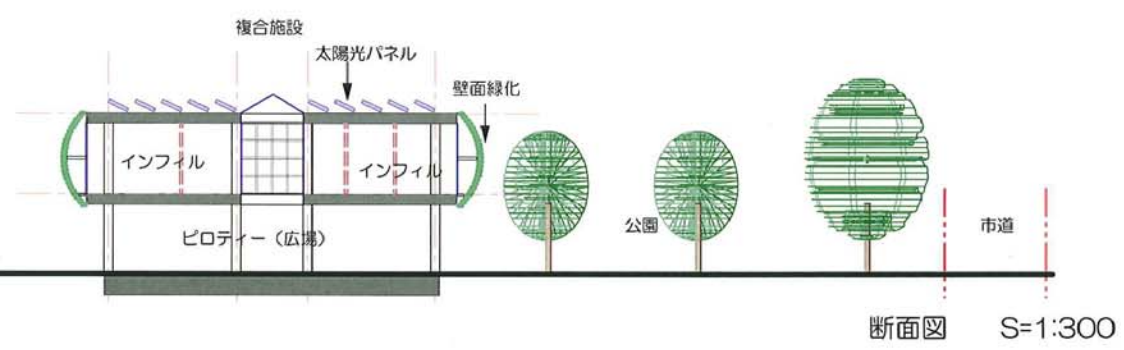




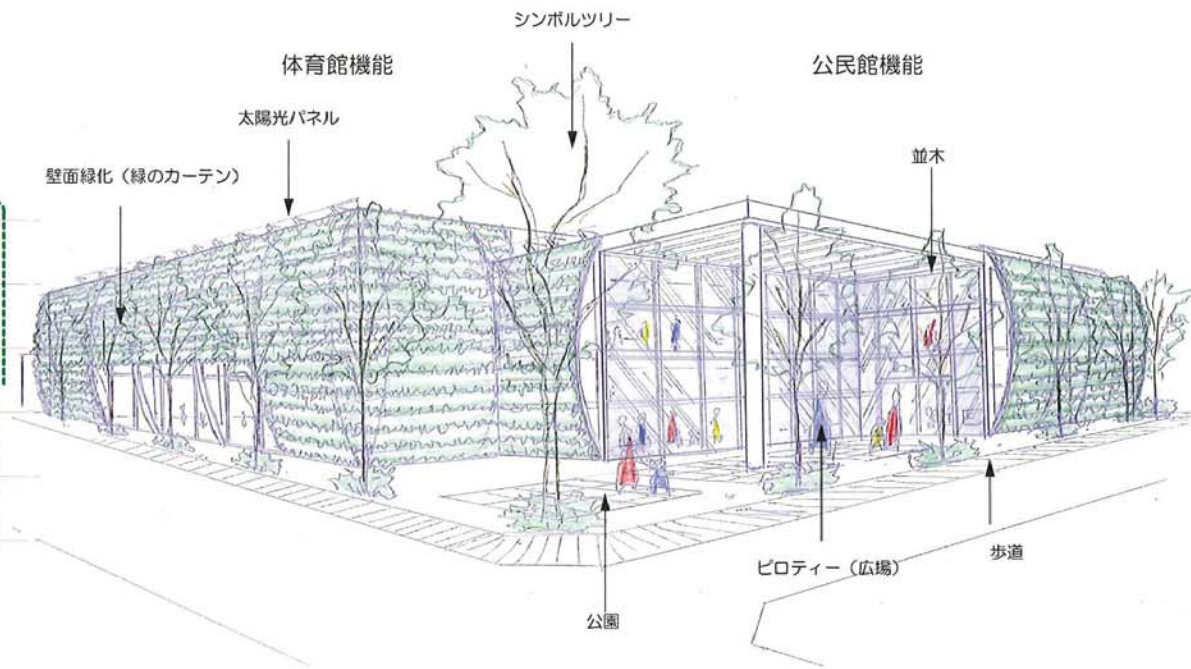
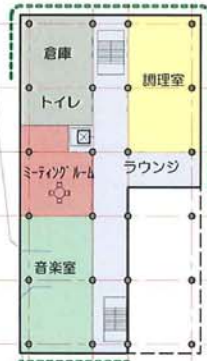
2F 1F・配置図 S=1:600



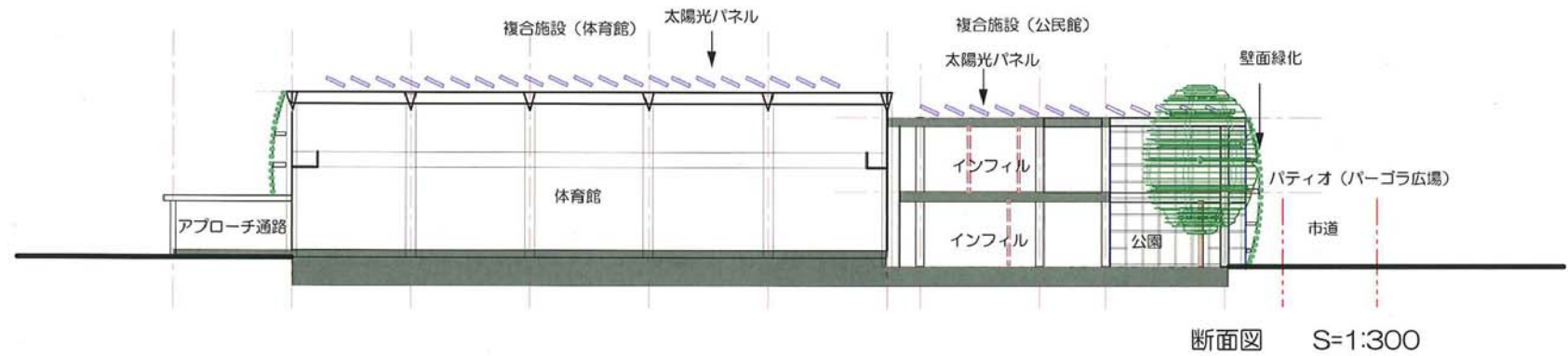
南西:コーナーより施設を望む



新たな施設の機能	
複合施設	
調理室 (40名)	100㎡
音楽室	100㎡
倉庫	
ミーティングルーム	
トイレ 誰でもトイレ	
子育て支援コーナー	
受付、備蓄庫	



南西:コーナーより施設を望む



新たな施設の機能	
複合施設	
調理室(40名)	100㎡
音楽室	100㎡
倉庫	
ミーティングルーム	
トイレ 誰でもトイレ	
子育て支援コーナー	
受付、備蓄庫	